



## ネットワーク分析ポリシーの開始

ネットワーク分析ポリシーは、多数のトラフィックの前処理オプションを制御し、アクセスコントロールポリシーの詳細設定で呼び出されます。ネットワーク分析に関する前処理は、セキュリティインテリジェンスのブラックリスト登録およびSSL復号化の後に行われますが、アクセスコントロールルールがパケットを詳細に検査する前、および侵入インスペクションまたはファイルインスペクションが開始される前に行われます。

デフォルトでは、システムは *Balanced Security and Connectivity* ネットワーク分析ポリシーを使用して、アクセスコントロールポリシーによって処理されるすべてのトラフィックを前処理します。ただし、この前処理を実行するために別のデフォルトのネットワーク分析ポリシーを選択できます。便宜を図るため、システムによっていくつかの変更不可能なネットワーク分析ポリシーの選択肢が提供されます。そのオプションは、脆弱性調査チーム(VRT)によってセキュリティおよび接続の固有のバランスに調整されます。カスタム前処理設定を使用して、このデフォルトポリシーをカスタムネットワーク分析ポリシーに置換することもできます。



ヒント

システム付属の侵入ポリシーとネットワーク分析ポリシーには同じような名前が付いていますが、異なる設定が含まれています。たとえば、「Balanced Security and Connectivity」ネットワーク分析ポリシーと「Balanced Security and Connectivity」侵入ポリシーは連携して動作し、どちらも侵入ルールのアップデートで更新できます。しかし、ネットワーク分析ポリシーは前処理オプションの大部分を制御するのに対し、侵入ポリシーは侵入ルールの大部分を制御します。[ネットワーク分析ポリシーまたは侵入ポリシーについて \(17-1 ページ\)](#) では、ネットワーク分析ポリシーと侵入ポリシーがトラフィックの検査に対してどのように連動するか、また、ナビゲーションパネルの使用、競合の解決、および変更のコミットに関するいくつかの基本について説明します。

複数のカスタム ネットワーク分析ポリシーを作成し、それらに異なるトラフィックの前処理を割り当てることによって、特定のセキュリティゾーンおよびネットワーク用にトラフィック前処理オプションを調整できます。



注

特に複数のカスタム ネットワーク分析ポリシーを使用した前処理の調整は、**高度な**タスクです。前処理インスペクションと侵入インスペクションは非常に密接に関連しているため、単一パケットを検査するネットワーク分析ポリシーと侵入ポリシーは互いに補完する**必要があります**。システムは、ユーザのポリシーを調整**せず**、設定ミスの際はデフォルトのオプションを使用します。詳細については、[カスタムポリシーの制限 \(17-12 ページ\)](#) を参照してください。

この章では、単純なカスタムネットワーク分析ポリシーを作成する方法について説明します。この章には、ネットワーク分析ポリシーの管理(編集、比較など)に関する基本情報も含まれています。詳細については、以下を参照してください。

- [カスタム ネットワーク分析ポリシーの作成 \(20-2 ページ\)](#)
- [ネットワーク分析ポリシーの管理 \(20-3 ページ\)](#)

- [インライン展開でプリプロセッサがトラフィックに影響を与えることを許可する \(20-5 ページ\)](#)
- [現在のネットワーク分析設定のレポートの生成 \(20-9 ページ\)](#)
- [2つのネットワーク分析ポリシーまたはリビジョンの比較 \(20-10 ページ\)](#)

## カスタム ネットワーク分析ポリシーの作成

ライセンス:すべて

新しいネットワーク分析ポリシーを作成するときは、一意の名前を付け、基本ポリシーを指定し、インライン モードを選択する必要があります。

基本ポリシーはネットワーク分析ポリシーのデフォルト設定を定義します。新しいポリシーの設定の変更は、基本ポリシーの設定を変更するのではなく、オーバーライドします。システム付属のポリシーまたはカスタム ポリシーを基本ポリシーとして使用できます。詳細については、[基本レイヤについて \(18-2 ページ\)](#) を参照してください。

ネットワーク分析ポリシーのインライン モードでは、プリプロセッサがトラフィックを変更(正規化)およびドロップし、攻撃者が検出を免れる可能性を最小限にすることができます。パッシブな展開では、インライン モードに関係なく、システムはトラフィック フローに影響を与えることができないことに注意してください。詳細については、[インライン展開でプリプロセッサがトラフィックに影響を与えることを許可する \(20-5 ページ\)](#) を参照してください。

ネットワーク分析ポリシーを作成するには、次の手順を実行します。

- 
- ステップ 1** [Configuration] > [ASA FirePOWER Configuration] > [Policies] > [Access Control Policy] の順に選択します。
- [Access Control Policy] ページが表示されます。
- ステップ 2** 編集するアクセス コントロール ポリシーの横にある編集アイコン(✎)をクリックします。
- アクセス コントロール ポリシー エディタが表示されます。
- ステップ 3** [Advanced] タブを選択します。
- アクセス コントロール ポリシーの詳細設定ページが表示されます。
- ステップ 4** [Network Analysis and Intrusion Policies] の横にある編集アイコン(✎)をクリックします。
- [Network Analysis and Intrusion Policies] ポップアップ ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** [Network Analysis Policy List] をクリックします。
- [Network Analysis Policy List] ポップアップ ウィンドウが表示されます。
- ステップ 6** [Create Policy] をクリックします。
- 別のポリシー内に未保存の変更が存在する場合は、[Network Analysis Policy] ページに戻るかどうか尋ねられたときに [Cancel] をクリックします。別のポリシーでの未保存の変更の保存方法については、[競合の解決とポリシー変更の確定 \(17-16 ページ\)](#) を参照してください。
- [Create Network Analysis Policy] ポップアップ ウィンドウが表示されます。
- ステップ 7** [Name] に一意のポリシー名を入力し、オプションで [Description] にポリシーの説明を入力します。
- ステップ 8** 最初の基本ポリシーを指定します。
- 基本ポリシーとしてシステムによって提供されるポリシーまたはカスタム ポリシーを使用できます。

**注意**

シスコの担当者から指示された場合を除き、Experimental Policy 1 は使用しないでください。シスコでは、試験用にこのポリシーを使用します。

- ステップ 9** プリプロセッサがインライン展開でトラフィックに影響を与えるようにするかどうかを指定します。
- プリプロセッサがトラフィックに影響を与えるようにするには、[Inline Mode]を有効にします。
  - プリプロセッサがトラフィックに影響を与えないようにするには、[Inline Mode]を無効にします。
- ステップ 10** ポリシーを作成します。
- 新しいポリシーを作成して [Network Analysis Policy] ページに戻るには、[Create Policy]をクリックします。新しいポリシーには基本ポリシーと同じ設定が付与されます。
  - ポリシーを作成し、高度なネットワーク分析ポリシー エディタで開いて編集するには、[Create and Edit Policy]をクリックします。[ネットワーク分析ポリシーの編集 \(20-4 ページ\)](#) を参照してください。

## ネットワーク分析ポリシーの管理

ライセンス:すべて

[Network Analysis Policy] ページで、次の情報とともに現在のカスタム ネットワーク分析ポリシーを確認できます。

- ポリシーが最後に変更された日時(ローカル時間)とそれを変更したユーザ
- プリプロセッサがトラフィックに影響を与えることを許可する [Inline Mode]設定が有効になっているかどうか
- どのアクセス コントロール ポリシーが、ネットワーク分析ポリシーを使用してトラフィックを前処理しているか
- ポリシーに保存されていない変更があるかどうか、およびポリシーを現在編集している人(いれば)に関する情報

[Network Analysis Policy] ページのオプションを使用することで、次の表にあるアクションを実行できます。

**表 20-1** ネットワーク分析ポリシーの管理操作

目的	操作	参照先
新しいネットワーク分析ポリシーを作成する	[Create Policy]をクリックします。	<a href="#">カスタム ネットワーク分析ポリシーの作成 (20-2 ページ)</a> 。
既存のネットワーク分析ポリシーを編集する	編集アイコン(  )をクリックします。	<a href="#">ネットワーク分析ポリシーの編集 (20-4 ページ)</a> 。
ネットワーク分析ポリシー内の現在の構成設定がリストされた PDF レポートを表示する	レポート アイコン(  )をクリックします。	<a href="#">現在のネットワーク分析設定のレポートの生成 (20-9 ページ)</a>

表 20-1 ネットワーク分析ポリシーの管理操作(続き)

目的	操作	参照先
2つのネットワーク分析ポリシーまたは同じポリシーの2つのリビジョンの設定を比較する	[Compare Policies]をクリックします。	2つのネットワーク分析ポリシーまたはリビジョンの比較(20-10ページ)。
ネットワーク分析ポリシーを削除する	削除アイコン(🗑️)をクリックし、ポリシーを削除することを確認します。アクセスコントロールポリシーが参照しているネットワーク分析ポリシーは削除できません。	

## ネットワーク分析ポリシーの編集

ライセンス:すべて

新しいネットワーク分析ポリシーを作成すると、そのポリシーには基本ポリシーと同じ設定が付与されます。次の表に、ニーズに合わせて新しいポリシーを調整するために実行できる最も一般的なアクションを示します。

表 20-2 ネットワーク分析ポリシーの編集操作

目的	操作	参照先
プリプロセッサがトラフィックを編集またはドロップすることを許可する	[Policy Information] ページで [Inline Mode] チェックボックスをオンにします。	インライン展開でプリプロセッサがトラフィックに影響を与えることを許可する(20-5ページ)
基本ポリシーを変更する	[Policy Information] ページの [Base Policy] ドロップダウンリストから、基本ポリシーを選択します。	基本ポリシーの変更(18-4ページ)
基本ポリシーの設定を表示する	[Policy Information] ページで [Manage Base Policy] をクリックします。	基本レイヤについて(18-2ページ)
プリプロセッサの設定を有効化、無効化、または編集する	ナビゲーションパネルで [Settings] をクリックします。	ネットワーク分析ポリシーでのプリプロセッサの設定(20-7ページ)
ポリシー層を管理する	ナビゲーションパネルで [Policy Layers] をクリックします。	ネットワーク分析ポリシーまたは侵入ポリシーでのレイヤの使用(18-1ページ)

ネットワーク分析ポリシーの調整時、特にプリプロセッサを無効化するときは、プリプロセッサおよび侵入ルールによってはトラフィックをある方法で最初に復号化または前処理する必要がありますことに留意してください。必要なプリプロセッサを無効にすると、システムは自動的に現在の設定でプリプロセッサを使用します。ただし、ネットワーク分析ポリシーのモジュールインターフェイスではプリプロセッサは無効のままになります。



注

前処理と侵入インスペクションは非常に密接に関連しているため、単一パケットを検査するネットワーク分析ポリシーと侵入ポリシーは、相互補完する必要があります。前処理の調整、特に複数のカスタム ネットワーク分析ポリシーを使用して調整することは、高度なタスクです。詳細については、[カスタム ポリシーの制限\(17-12 ページ\)](#)を参照してください。

システムは、ユーザ 1 人あたり 1 つのネットワーク分析ポリシーをキャッシュします。ネットワーク分析ポリシーの編集に、任意のメニューまたは別のページへの他のパスを選択した場合、変更内容はそのページを離れてもシステム キャッシュにとどまります。上の表に示す実行できるアクションの他に、[ネットワーク分析ポリシーまたは侵入ポリシーについて \(17-1 ページ\)](#)では、ナビゲーション パネルの使用、競合の解決、および変更のコミットに関する情報を記載しています。

ネットワーク分析ポリシーを編集するには、次の手順を実行します。

- 
- ステップ 1 [Configuration] > [ASA FirePOWER Configuration] > [Policies] > [Access Control Policy] の順に選択します。  
[Access Control Policy] ページが表示されます。
  - ステップ 2 編集するアクセス コントロール ポリシーの横にある編集アイコン(✎)をクリックします。  
アクセス コントロール ポリシー エディタが表示されます。
  - ステップ 3 [Advanced] タブを選択します。  
アクセス コントロール ポリシーの詳細設定ページが表示されます。
  - ステップ 4 [Network Analysis and Intrusion Policies] の横にある編集アイコン(✎)をクリックします。  
[Network Analysis and Intrusion Policies] ポップアップ ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 5 [Network Analysis Policy List] をクリックします。  
[Network Analysis Policy List] ポップアップ ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 6 設定するネットワーク分析ポリシーの横にある編集アイコン(✎)をクリックします。  
ネットワーク分析ポリシー エディタが表示され、[Policy Information] ページに焦点が置かれ、左側にナビゲーション パネルがあります。
  - ステップ 7 ポリシーを編集します。上記に要約されているいずれかの操作を実行します。
  - ステップ 8 ポリシーの保存、編集の継続、変更の破棄、またはシステム キャッシュに変更を残した状態での終了を行います。詳細については、[競合の解決とポリシー変更の確定 \(17-16 ページ\)](#)を参照してください。
- 

## インライン展開でプリプロセッサがトラフィックに影響を与えることを許可する

ライセンス:すべて

インライン展開では、プリプロセッサによってはトラフィックを変更およびブロックできます。次に例を示します。

- インライン正規化プリプロセッサは、パケットを正規化し、他のプリプロセッサおよび侵入ルール エンジンで分析されるようにパケットを準備します。また、プリプロセッサの [Block Unrecoverable TCP Header Anomalies] および [Allow These TCP Options] オプションを使用して、特定のパケットをブロックすることもできます。詳細については、[インライントラフィックの正規化 \(23-6 ページ\)](#)を参照してください。
- システムは無効なチェックサムを持つパケットをドロップできます。[チェックサムの検証 \(23-5 ページ\)](#)を参照してください。

- システムはレート ベースの攻撃防御設定に一致するパケットをドロップできます。[レートベース攻撃の防止 \(27-10 ページ\)](#) を参照してください。

ネットワーク分析ポリシーに設定したプリプロセッサがトラフィックに影響するようにするには、プリプロセッサを有効にして正しく設定し、さらにデバイスをインラインで正しく展開する必要があります。最後に、ネットワーク分析ポリシーの [Inline Mode] 設定を有効にします。

設定がインライン展開で実際にトラフィックを変更することなくどのように機能するかを評価する場合は、インライン モードを無効にできます。パッシブ展開では、インラインモードであっても、システムはトラフィック フローに影響を与える可能性はないことに注意してください。



#### ヒント

インライン展開では、シスコはインライン モードを有効にし、[Normalize TCP Payload] オプションを有効にしたままインライン正規化プリプロセッサを設定することを推奨します。パッシブ展開の場合、シスコは、適応型プロファイルを設定することを推奨しています。

プリプロセッサがインライン展開でトラフィックに影響を与えることを許可するには、次の手順を実行します。

- 
- ステップ 1** [Configuration] > [ASA FirePOWER Configuration] > [Policies] > [Access Control Policy] の順に選択します。  
[Access Control Policy] ページが表示されます。
- ステップ 2** 編集するアクセス コントロール ポリシーの横にある編集アイコン(✎)をクリックします。  
アクセス コントロール ポリシー エディタが表示されます。
- ステップ 3** [Advanced] タブを選択します。  
アクセス コントロール ポリシーの詳細設定ページが表示されます。
- ステップ 4** [Network Analysis and Intrusion Policies] の横にある編集アイコン(✎)をクリックします。  
[Network Analysis and Intrusion Policies] ポップアップ ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** [Network Analysis Policy List] をクリックします。  
[Network Analysis Policy List] ポップアップ ウィンドウが表示されます。
- ステップ 6** 編集するポリシーの横にある編集アイコン(✎)をクリックします。  
[Policy Information] ページが表示されます。
- ステップ 7** プリプロセッサがトラフィックに影響を与えるようにするかどうかを指定します。
- プリプロセッサがトラフィックに影響を与えるようにするには、[Inline Mode] を有効にします。
  - プリプロセッサがトラフィックに影響を与えないようにするには、[Inline Mode] を無効にします。
- ステップ 8** ポリシーの保存、編集の継続、変更の破棄、またはシステム キャッシュに変更を残した状態での終了を行います。詳細については、[競合の解決とポリシー変更の確定 \(17-16 ページ\)](#) を参照してください。
-

## ネットワーク分析ポリシーでのプリプロセッサの設定

ライセンス:すべて

プリプロセッサは、トラフィックを正規化し、プロトコルの異常を識別することで、トラフィックがさらに検査されるように準備します。プリプロセッサは、パケットがユーザが設定したプリプロセッサ オプションをトリガーしたときに、プリプロセッサ イベントを生成します。デフォルトで有効になるプリプロセッサや、それぞれのデフォルト設定は、ネットワーク分析ポリシーの基本ポリシーに応じて決まります。

ネットワーク分析ポリシーのナビゲーション パネルで **[Settings]** を選択すると、ポリシーによってタイプ別のプリプロセッサがリストされます。**[Settings]** ページで、ネットワーク分析ポリシーのプリプロセッサを有効または無効にしたり、プリプロセッサの設定ページにアクセスしたりできます。

プリプロセッサを設定するには、それを有効にする必要があります。プリプロセッサを有効にすると、そのプリプロセッサに関する設定ページへのサブリンクがナビゲーション パネル内の **[Settings]** リンクの下に表示され、この設定ページへの **[Edit]** リンクが **[Settings]** ページのプリプロセッサの横に表示されます。



ヒント

プリプロセッサの設定を基本ポリシーの設定に戻すには、プリプロセッサ設定ページで **[Revert to Defaults]** をクリックします。プロンプトが表示されたら、戻すことを確認します。

プリプロセッサを無効にすると、サブリンクと **[Edit]** リンクは表示されなくなりますが、設定は保持されます。特定の分析を実行するには、多くのプリプロセッサおよび侵入ルールで、トラフィックをある方法で最初に復号化または前処理する必要があることに注意してください。必要なプリプロセッサを無効にすると、システムは自動的に現在の設定でプリプロセッサを使用します。ただし、ネットワーク分析ポリシーのモジュール インターフェイスではプリプロセッサは無効のままになります。



注

多くの場合、プリプロセッサの設定には特定の専門知識が必要で、通常は、ほとんどあるいはまったく変更を必要としません。特に複数のカスタム ネットワーク分析ポリシーを使用した前処理の調整は、**高度な**タスクです。前処理インスペクションと侵入インスペクションは非常に密接に関連しているため、単一パケットを検査するネットワーク分析ポリシーと侵入ポリシーは互いに補完する**必要があります**。詳細については、**カスタム ポリシーの制限 (17-12 ページ)** を参照してください。

プリプロセッサの設定を変更するには、その設定とネットワークへの潜在的影響を理解する必要があります。次の項では、プリプロセッサごとに固有の設定の詳細情報へのリンクを記述します。

### アプリケーション層プリプロセッサ

アプリケーション層プロトコル デコーダは、特定のタイプのパケット データを、侵入ルール エンジンで分析できる形式に正規化します。

表 20-3 アプリケーション層プリプロセッサの設定

設定	参照先
DCE/RPC の設定	<a href="#">DCE/RPC トラフィックの復号化 (21-2 ページ)</a>
DNS の設定	<a href="#">DNS ネーム サーバの応答内の 익스プロイトの検出 (21-16 ページ)</a>
FTP および Telnet の設定	<a href="#">FTP および Telnet トラフィックの復号化 (21-20 ページ)</a>

表 20-3 アプリケーション層プリプロセッサの設定(続き)

設定	参照先
HTTP の設定	<a href="#">HTTP トラフィックの復号化(21-33 ページ)</a>
Sun RPC の設定	<a href="#">Sun RPC プリプロセッサの使用(21-50 ページ)</a>
SIP の設定	<a href="#">Session Initiation Protocol の復号化(21-52 ページ)</a>
GTP コマンドチャンネルの設定	<a href="#">GTP コマンドチャンネルの設定(21-57 ページ)</a>
IMAP の設定	<a href="#">IMAP トラフィックの復号化(21-58 ページ)</a>
POP の設定	<a href="#">POP トラフィックの復号化(21-61 ページ)</a>
SMTP の設定	<a href="#">SMTP トラフィックの復号化(21-65 ページ)</a>
SSH の設定	<a href="#">SSH プリプロセッサによるエクスプロイトの検出(21-72 ページ)</a>
SSL Configuration	<a href="#">SSL プリプロセッサの使用(21-77 ページ)</a>

### SCADA プリプロセッサ

Modbus と DNP3 のプリプロセッサは、トラフィックの異常を検出し、インスペクションのためにデータを侵入ルール エンジンに提供します。

表 20-4 SCADA プリプロセッサの設定

設定	参照先
Modbus の設定	<a href="#">Modbus プリプロセッサの設定(22-1 ページ)</a>
DNP3 の設定	<a href="#">DNP3 プリプロセッサの設定(22-3 ページ)</a>

### トランスポート層/ネットワーク層プリプロセッサ

ネットワーク層とトランスポート層のプリプロセッサは、ネットワーク層とトランスポート層でエクスプロイトを検出します。パケットがプリプロセッサに送信される前に、パケット デコーダにより、パケット ヘッダーとペイロードが、プリプロセッサや侵入ルール エンジンで簡単に使用できる形式に変換されます。また、パケット ヘッダー内でさまざまな異常動作が検出されます。

表 20-5 トランスポート層とネットワーク層のプリプロセッサの設定

設定	参照先
チェックサムの検証	<a href="#">チェックサムの検証(23-5 ページ)</a>
インライン正規化	<a href="#">インライン トラフィックの正規化(23-6 ページ)</a>
IP の最適化	<a href="#">IP パケットのデフラグ(23-12 ページ)</a>
パケットの復号化	<a href="#">パケット復号化について(23-17 ページ)</a>
TCP ストリームの設定	<a href="#">TCP ストリームの前処理の使用(23-21 ページ)</a>
UDP ストリームの設定	<a href="#">UDP ストリームの前処理の使用(23-33 ページ)</a>

トランスポート/ネットワーク プリプロセッサの詳細設定は、アクセス コントロール ポリシーが適用されるすべてのネットワークおよびゾーンにグローバルに適用されることに注意してください。これらの詳細設定は、ネットワーク分析ポリシーではなくアクセス コントロール ポリシーで設定します。[トランスポート/ネットワークの詳細設定の構成\(23-1 ページ\)](#)を参照してください。



### 特定の脅威の検出

Back Orifice プリプロセッサは、Back Orifice マジック クッキーについて UDP トラフィックを分析します。スキャン アクティビティを報告するようにポートスキャンディテクタを設定できます。レート ベースの攻撃防御は、ネットワークを圧迫するように設計された SYN フラッドや膨大な同時接続からネットワークを保護するのに役立ちます。

表 20-6 特定の脅威の検出の設定

設定	参照先
Back Orifice の検出	<a href="#">バック オリフィスの検出 (27-1 ページ)</a>
ポートスキャンの検出	<a href="#">ポートスキャンの検出 (27-3 ページ)</a>
レートベースの攻撃防御	<a href="#">レートベース攻撃の防止 (27-10 ページ)</a>

侵入ポリシーで、ASCII テキストのクレジットカード番号や社会保障番号などのセンシティブ データを検出するセンシティブ データ プリプロセッサを設定することに注意してください。詳細については、[センシティブ データ検出 \(27-20 ページ\)](#)を参照してください。

## 現在のネットワーク分析設定のレポートの生成

### ライセンス:すべて

ネットワーク分析ポリシー レポートは、特定の時点でのポリシー設定の記録です。システムは、基本ポリシー内の設定とポリシー層の設定を統合して、基本ポリシーに起因する設定とポリシー層に起因する設定を区別しません。

このレポートには、次の情報が含まれており、監査目的や現在の設定を調べるために使用できます。

表 20-7 ネットワーク分析ポリシー レポートのセクション

セクション	説明
Policy Information	ポリシーの名前と説明、ポリシーを最後に変更したユーザの名前、ポリシーが最後に変更された日時が記載されます。また、インライン正規化を有効にできるかどうか、現在のルール更新のバージョン、および基本ポリシーが現在のルール更新にロックされているのかも記載されます。
Settings	有効なすべてのプリプロセッサの設定とその構成を表示します。

また、2つのネットワーク分析ポリシーまたは同じポリシーの2つのリビジョンを比較する比較レポートを生成することもできます。詳細については、[2つのネットワーク分析ポリシーまたはリビジョンの比較 \(20-10 ページ\)](#)を参照してください。

ネットワーク分析ポリシー レポートを表示するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** [Configuration] > [ASA FirePOWER Configuration] > [Policies] > [Access Control Policy] の順に選択します。  
[Access Control Policy] ページが表示されます。
- ステップ 2** 編集するアクセス コントロール ポリシーの横にある編集アイコン(✎)をクリックします。  
アクセス コントロール ポリシー エディタが表示されます。

## ■ 2つのネットワーク分析ポリシーまたはリビジョンの比較

- ステップ 3** [Advanced]タブを選択します。  
アクセス コントロール ポリシーの詳細設定ページが表示されます。
- ステップ 4** [Network Analysis and Intrusion Policies]の横にある編集アイコン(✎)をクリックします。  
[Network Analysis and Intrusion Policies] ポップアップ ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** [Network Analysis Policy List]をクリックします。  
[Network Analysis Policy List] ポップアップ ウィンドウが表示されます。
- ステップ 6** レポートの生成対象とするポリシーの横にあるレポート アイコン(📄)をクリックします。ネットワーク分析ポリシー レポートを生成する前に、変更をコミットするのを忘れないでください。コミットされた変更だけがレポートに表示されます。  
システムによってレポートが生成されます。コンピュータにレポートを保存するように求められます。

## 2つのネットワーク分析ポリシーまたはリビジョンの比較

### ライセンス:すべて

組織の標準に準拠しているかを確認する目的や、システム パフォーマンスを最適化する目的でポリシーの変更を検討するために、2つのネットワーク分析ポリシーの差異を調べることができます。2つのネットワーク分析ポリシーまたは同じネットワーク分析ポリシーの2つのリビジョンを比較できます。比較した後に、必要に応じて、2つのポリシーまたはポリシー リビジョン間の違いを記録した PDF レポートを生成できます。

ネットワーク分析ポリシーまたはポリシーのリビジョンを比較するために使用できる2つのツールがあります。

- 比較ビューには、2つのネットワーク分析ポリシーまたはネットワーク分析ポリシー リビジョン間の違いだけが並べて表示されます。各ポリシーまたはポリシー リビジョンの名前が比較ビューの左右のタイトル バーに表示されます。  
これを使用して、モジュール インターフェイスで相違点を強調表示したまま、両方のポリシーのリビジョンを表示し移動することができます。
- 比較レポートは、2つのネットワーク分析ポリシーまたはネットワーク分析ポリシー リビジョン間の違いのみを記録したもので、PDF 形式であるという以外は、ネットワーク分析ポリシー レポートと類似した形式になっています。  
これは、ポリシー比較を保存、コピー、出力、および共有して、詳しく調査するために使用できます。

ポリシー比較ツールの概要と使用法の詳細については、次の項を参照してください。

- [ネットワーク分析ポリシー比較ビューの使用 \(20-11 ページ\)](#)
- [ネットワーク分析ポリシー比較レポートの使用 \(20-11 ページ\)](#)

## ネットワーク分析ポリシー比較ビューの使用

ライセンス:すべて

比較ビューには、両方のポリシーまたはポリシー リビジョンが並べて表示されます。それぞれのポリシーまたはポリシー リビジョンは、比較ビューの左右のタイトル バーに表示された名前で見分けられます。ポリシー名とともに、最後に変更した時間と、最後に変更したユーザが表示されます。

2つのポリシーの違いは、次のように強調表示されます。

- 青色は強調表示された設定が2つのポリシーで異なることを示し、差異は赤色で示されます。
- 緑色は強調表示された設定が一方のポリシーには存在するが、他方には存在しないことを示します。

次の表に、実行できる操作を記載します。

表 20-8 ネットワーク分析ポリシー比較ビューの操作

目的	操作
変更個別にナビゲートする	またはタイトル バーの上にある [Previous] または [Next] をクリックします。  左側と右側の間にある二重矢印アイコン(⇄)が移動し、表示している違いを示す [Difference] 番号が変わります。
新しいポリシー比較ビューを生成する	[New Comparison] をクリックします。  [Select Comparison] ウィンドウが表示されます。詳細については、「 <a href="#">ネットワーク分析ポリシー比較レポートの使用 (20-11 ページ)</a> 」を参照してください。
ポリシー比較レポートを生成する	[Comparison Report] をクリックします。  ポリシー比較レポートは、2つのポリシーまたはポリシー リビジョン間の違いのみをリストする PDF ドキュメントを作成します。

## ネットワーク分析ポリシー比較レポートの使用

ライセンス:すべて

ネットワーク分析ポリシー比較レポートは、ネットワーク分析ポリシー比較ビューで特定された2つのネットワーク分析ポリシー間または同じネットワーク分析ポリシーの2つのリビジョン間のすべての違いの記録を、PDF として提供するものです。このレポートを使用して、2つのネットワーク分析ポリシーの設定の間の相違点をさらに調べ、その結果を保存して配信することができます。

アクセス可能な任意のポリシーに関して、比較ビューからネットワーク分析ポリシー比較レポートを生成できます。ポリシー レポートを生成する前に、必ずすべての変更を保存してください。レポートには、保存されている変更だけが表示されます。

ポリシー比較レポートの形式は、ポリシー レポートと同様です。唯一異なる点は、ポリシー レポートにはポリシーのすべての設定が記載される一方、ポリシー比較レポートにはポリシー間で異なる設定だけがリストされることです。ネットワーク分析ポリシー比較レポートは、[表 20-7 \(20-9 ページ\)](#)に記載されているセクションから成ります。



ヒント

同様の手順を使用して、SSL ポリシー、アクセス コントロール ポリシー、侵入ポリシー、またはファイル ポリシーを比較できます。

2つのネットワーク分析ポリシーまたはポリシー リビジョンを比較するには、次の手順を実行します。

- 
- ステップ 1** [Configuration] > [ASA FirePOWER Configuration] > [Policies] > [Access Control Policy] の順に選択します。
- [Access Control Policy] ページが表示されます。
- ステップ 2** 編集するアクセス コントロール ポリシーの横にある編集アイコン(✎)をクリックします。
- アクセス コントロール ポリシー エディタが表示されます。
- ステップ 3** [Advanced] タブを選択します。
- アクセス コントロール ポリシーの詳細設定ページが表示されます。
- ステップ 4** [Network Analysis and Intrusion Policies]の横にある編集アイコン(✎)をクリックします。
- [Network Analysis and Intrusion Policies] ポップアップ ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** [Network Analysis Policy List]をクリックします。
- [Network Analysis Policy List] ポップアップ ウィンドウが表示されます。
- ステップ 6** [Compare Policies]をクリックします。
- [Select Comparison] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 7** [Compare Against] ドロップダウン リストから、比較するタイプを次のように選択します。
- 異なる 2つのポリシーを比較するには、[Other Policy]を選択します。  
ページが更新されて、[Policy A] と [Policy B] という 2つのドロップダウンリストが表示されます。
  - 同じポリシーの 2つのリビジョンを比較するには、[Other Revision]を選択します。  
ページが更新され、[Policy]、[Revision A] および [Revision B] ドロップダウンリストが表示されます。
- ステップ 8** 選択した比較タイプに応じて、次のような選択肢があります。
- 2つの異なるポリシーを比較する場合は、[Policy A] および [Policy B] ドロップダウンリストのそれぞれから、比較するポリシーを選択します。
  - 同じポリシーの 2つのリビジョンを比較する場合は、[Policy] を選択し、[Revision A] および [Revision B] ドロップダウンリストから比較するタイムスタンプ付きリビジョンを選択します。
- ステップ 9** ポリシー比較ビューを表示するには、[OK]をクリックします。
- 比較ビューが表示されます。
- ステップ 10** 必要に応じて、ネットワーク分析ポリシー比較レポートを生成するには [Comparison Report] をクリックします。
- ネットワーク分析ポリシー比較レポートが表示されます。コンピュータにレポートを保存するように求められます。
-